

# 令和4年度 全国学力学習状況調査〈国語〉

生野中学校

## 1 正答率の高かった問題

- ・論理の展開などに注意して聞く（88.9％）
- ・文脈に即して漢字を正しく書く（94.4％）
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解する（83.9％）
- ・漢字の行書の読みやすい書き方について理解する（88.9％）
- ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する（88.9％）

※基礎的な問題は、概ね正答率が高く、文章を論理的に読解することもできている。心情語などから登場人物の心情を考えたり、登場人物の行動の意味を捉えることはできている。

漢字の読み書きに関しても、正答率は高く、文脈に沿った選択もできている。

## 2 正答率の低かった問題

- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す（38.9％）
- ・表現の技法について理解する（38.9％）
- ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える（55.6％）
- ・行書の特徴を理解する（27.8％）

※「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問題は、無回答率が27.8％で、正答率も低いことから、聞き手に応じた語句を選択したり、表現を工夫する力の定着率が低いことがわかる。

自分の考えをわかりやすく伝えるように話すために、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認することが重要である。ICT機器を活用してスピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確認したりする学習活動が考えられる。

※「表現の技法について理解する」問題は、無回答率0％に対して正答率が低く、表現技法についての知識（種類など）の不足が顕著である。

表現の技法については、小学校での学習を踏まえ、「比喩」、「反復」、「倒置」、「体言止め」などの名称で呼ばれている表現の技法をその意味や用法と結びつけて理解し、話や文章の中で使えるような機会を設けることが必要だと感じた。表現技法を用いた文章を表現技法を用いない文に書き換え、両者を比較することを通して、表現の技法の効果を確認する学習活動などが考えられる。

※「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」問題は、無回答率0％に対して正答率が低い。

文学的な文章を読み解く際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結びつけたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結びつけたりすることによって、場面描写に新たな意味づけをすることが重要である。

学習活動としては、心情を表す言葉を取り上げその変化をたどったり、叙述の細やかな違いに注意して、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりする必要がある。

※「行書の特徴を理解する」問題は、無回答率 0%に対して正答率が低い。

中学 1 年生で習った行書の特徴についての基礎知識の復習が必要であり、また、それを活用し、字を書く時間を設ける学習活動を設ける必要がある。

### 3 全体を通して

基礎的な知識は定着しており、説明的文章を論理的に読解することも概ねできているが、自身の考えを表現する部分においては、苦手な生徒も多く見られる。本校は全校生徒も少なく小規模校ではあるが、その反面、一人一人が人前で、発表したりスピーチをする機会に恵まれている。その強みを生かし、自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えるという意識を持たせた上で、話し合い活動の中では、自分の意見の根拠を持ち発表する実践や、相手の発言を自分で解釈したり要約する場を設けていきたい。

また、読書活動を通して語句に興味を持たせ、知識の定着と共に語句の活用に発展させるように指導する必要があると感じた。